

すごく喉が痛いです！

— 隠れた怖い感染症:化膿性血栓性静脈炎(Lemierre 症候群) —

静岡県立静岡がんセンター 感染症内科 倉井華子

のどが痛い＝風邪、咽頭炎と考えていると、時に怖い疾患を見逃すことがある。今回は Lemierre 症候群を紹介する。Lemierre 症候群は嫌気性菌(主に *Fusobacterium necrophorum*)による内頸静脈の血栓性静脈炎である。肺などに septic emboli を合併することが多い。咽頭痛＋熱が長く続く症例、頸静脈に沿った痛みがある症例、肺に多発結節影を認めるような症例では本疾患を疑い、入院加療を勧めましょう。

症例:60代男性

【主訴】頭痛、頸部痛

【現病歴】

10日前から頭重感を自覚。徐々に左頸部から側頭部にかけての痛みが変わった。昨日より頭痛が増強し拍動痛になったため救急外来を受診した。疼痛部位は左顔面から頸部。

【身体所見】

体温 38.1 度、脈拍 93/分、血圧 127/80mmHg

意識清明、項部硬直なし、

口腔内は齲歯があり不衛生、腫脹や潰瘍は認めない

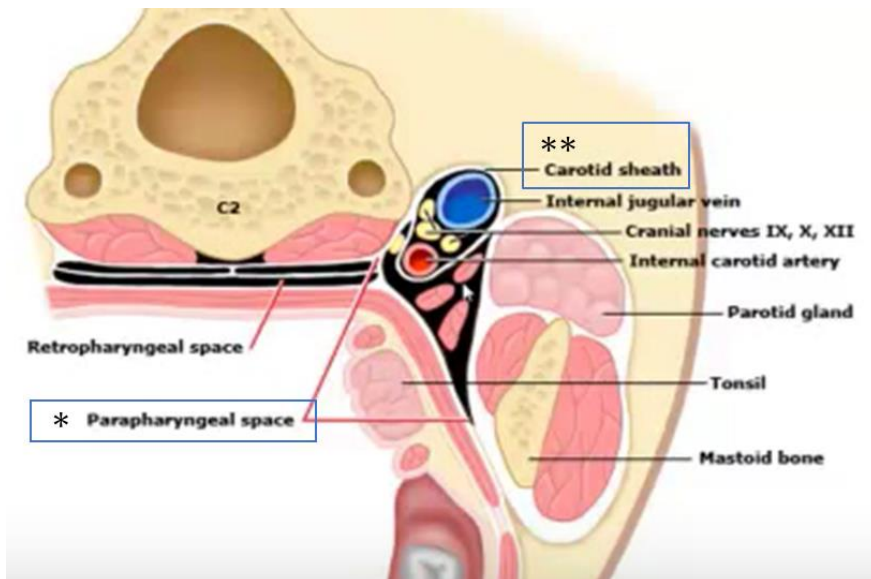
左頸部に腫脹と圧痛を認める

【その後の経過】

頭痛、頸部痛を認めたため、血液培養を 2 セット採取し、腰椎穿刺を施行したが髄膜炎の所見は認めなかった。頭部～胸部の造影 CT を施行。左内頸静脈に静脈内血栓、胸部 CT で肺野に多発する結節影を認めた。Lemierre 症候群と診断し、アンピシリン/スルバクタムを開始した。翌日血液培養が陽性となり、*Fusobacterium nucleatum* と *Peptostreptococcus* が検出された。

Lemierre 症候群は咽頭や扁桃周囲の感染から parapharyngeal space(*咽頭傍間隙)の後方に感染が進展し、さらに carotid sheath(**頸動脈鞘)への進展で、頸静脈の血栓性静脈炎を発症する(図1)。咽頭炎や歯周感染症が契機になることが多く、咽頭痛などの上気道症状から4-5日(長ければ12日)経過して熱や強い頸部痛が出た場合には本疾患を疑う。頸静脈に沿って炎症が出るため、内頸静脈の血栓性静脈炎を反映する胸鎖乳突筋に沿った痛みや炎症所見(26~45%)が特徴的である。咽頭の所見は軽度発赤や扁桃腫大、膿瘍の付着などを認める場合もあるが、正常であることも多い。

図 1 レミエール症候群の進展に関与する頸部解剖



<https://www.youtube.com/watch?v=-UOjKNn-xqA> より改変

Lemierre 症候群の怖いところは、頸静脈の血栓から遠隔臓器への細菌性塞栓・感染が起こること、頸静脈周囲に炎症が及び縦郭や椎体まで膿瘍が広がることである。血栓症として肺は最も頻度の高い臓器でありその頻度は 79～100%と高い。ついで関節炎(13～27%)や骨髄炎が多く、肝臓、脾臓、皮膚、感染性心内膜炎、髄膜炎もまれに報告がある。頸動脈鞘のすぐ横には咽頭傍間隙が控えている。このスペースと椎体の間は筋膜で更にわけられているが、非常に薄い隔壁であり、縦隔、横隔膜、尾骨までスペースが続いている。一度膿瘍が形成されると重力に従って下まで容易に拡大し、縦隔炎や椎体周囲の膿瘍などを引き起こす。

診断に血液培養が有効であり、抗菌薬開始前に 2 セット以上を採取する。血管の評価はエコーまたは CT で行う。

原因菌としては *Fusobacterium necrophorum* が最も多く 57%を占める。その他の *Fusobacterium species* や *Peptostreptococcus* などの嫌気性連鎖球菌、*Bacteroides* などの嫌気性グラム陰性桿菌も原因となる。そのため抗菌薬は *Fusobacterium* を含む口腔内嫌気性菌、連鎖球菌をカバーする抗菌薬を選択する。一部の *Fusobacterium* はβラクタマーゼを産生するため、βラクタマーゼ阻害剤配合のペニシリン系(アンピシリン・スルバクタム)やクリンダマイシンなどが用いられる。原則入院での治療が必要である。

参考文献

- ① Lemierre, A.: Ton chemin septicaemia due to anaerobic organisms. Lancet, 1:701~703, 1936
- ② Sinave CP, Hardy GJ, Fardy PW. The Lemierre syndrome: suppurative thrombophlebitis of the internal jugular vein secondary to oropharyngeal infection. Medicine (Baltimore). Mar;68(2):85-94. 1989
- ③ Karkos PD, Asrani S, Karkos CD. et al: Lemierre's Syndrome: A Systematic Review, Laryngoscope, 119:1552-1559, 2009